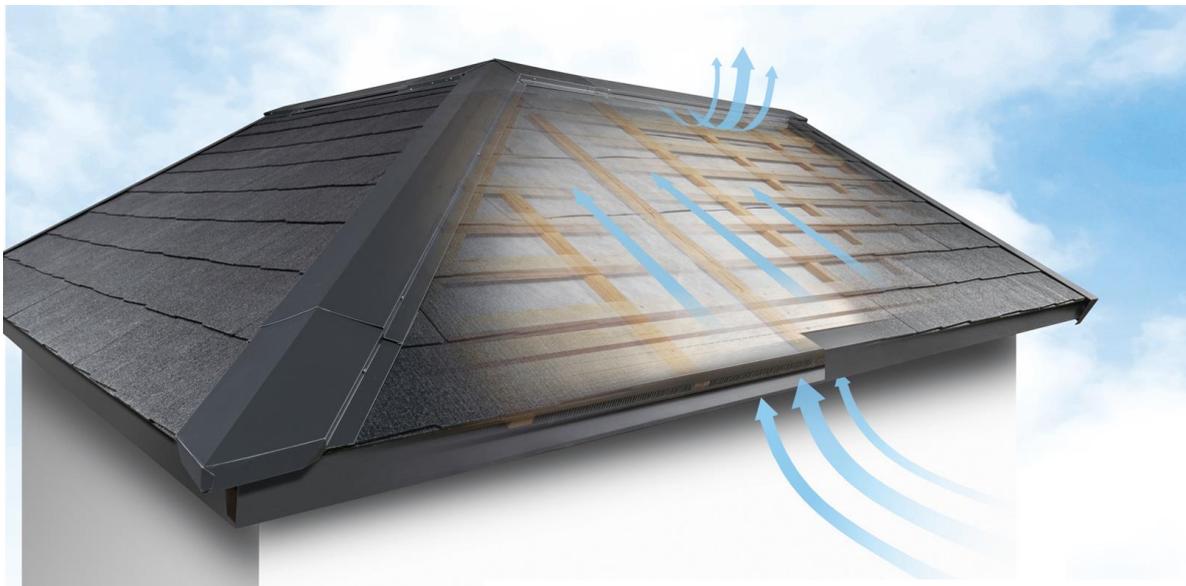


2020年5月20日

住宅の長寿命化を目指して 屋根下地の耐久性を向上させる「通気下地屋根構法」を開発

住まいの外まわりを提供する外装建材メーカーのケイミュー株式会社(本社:大阪市中央区、社長:木村均)は、カラーベスト60周年を迎える2020年度の節目に、屋根の更なる進化を目指して、「軽く強く」「長く美しく」「省施工」「廃材削減」の考えを軸とした「ROOF Innovation」を推進します。「長く美しく」の一つとして、このたび住宅の長寿命化に貢献する「通気下地屋根構法」を新たにご提案いたします。



通気下地屋根構法

資源面・環境面への配慮から国策として住宅の長寿命化が推進されていますが、その中で木造住宅における外皮の耐久性向上が大きな課題となっています。国土交通省国土技術政策総合研究所(以下国総研)は平成29年(2017年)6月に「木造住宅の耐久性向上に関わる建物外皮の構造・仕様とその評価に関する研究」と題した研究報告を発表。いま国を挙げてその実現に取り組んでいます。

そのような背景を受け、ケイミューでは東海大学名誉教授 石川廣三先生に助言をいただきながら、屋根下地の耐久性を高める構法を開発。このたび国総研の研究内容に適合した「通気下地屋根構法」をご提案します。

これまでのスレート屋根の標準的な工法は、約30年で下葺材や下地材の点検・交換などのメンテナンスが必要になります。通気下地屋根構法では、外皮内部で空気を自然循環させて木材の劣化を抑制することにより、下地の耐久性を80年まで延ばすことを目指します。また、災害等による万が一の屋根材本体の破損時にも、通気層から速やかに雨水を排出できるため、補修までの雨もれを抑制できるといったメリットも有しています。

当社は、今後も長く安心して暮らせる住まいづくり、資源ロスのないエコロジーな未来づくりに貢献してまいります。

通気下地屋根構法

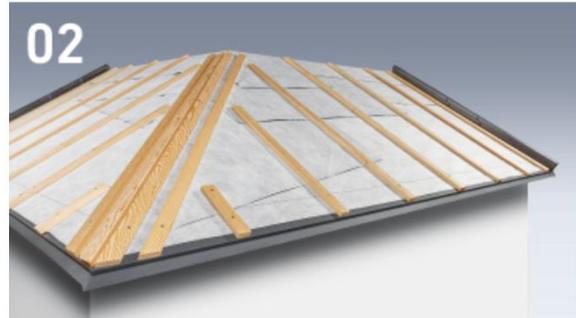


- 通気層を設けることにより、屋根材裏側に入った雨水は軒先から、湿気は換気棟から速やかに排出。
- 屋根材留め付けビスを下葺材に貫通させないことにより(横棧に留付)、雨水の浸入を防ぐ。
- 屋根材の葺き替え・差し替え時にも下葺材のはがれがなく、防水性の低下を防ぐ。
- 屋根下地腐朽による下地からの飛散や、釘抜けによる屋根材の飛散のリスクが低減できる。

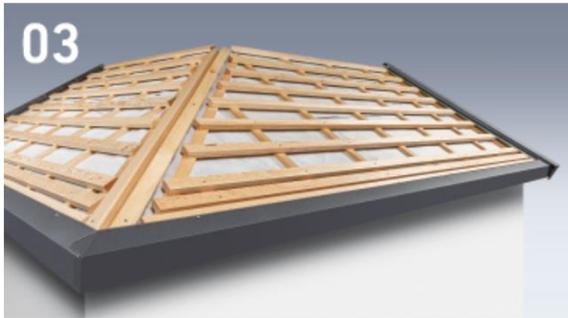
●施工方法



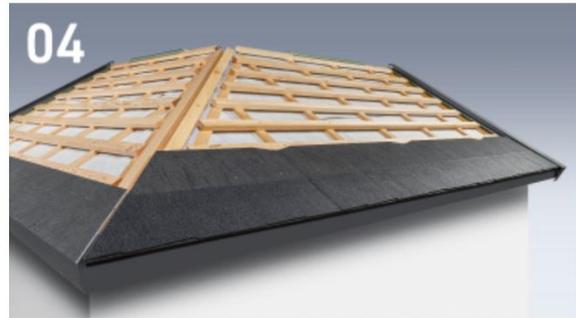
01 野地板キャップ・軒先水切(小)を留付け



02 下葺材の後、縦棧を固定



03 横棧、軒先水切(大)など留付け



04 スターター、本体をビスで留付けて完成

●対応商品

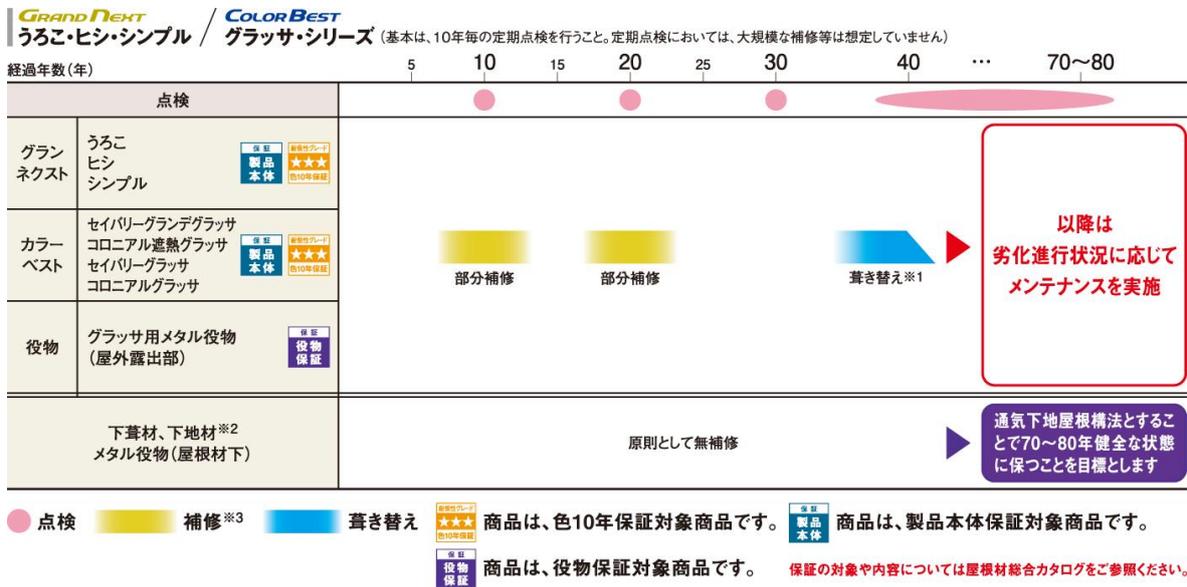
グランネクスト/うろこ・ヒシ・シンプル

カラーベスト/セイバリーグランデグラスサ・コロニアル遮熱グラスサ・セイバリーグラスサ・コロニアルグラスサ

●施工方法と屋根性能の両面から住宅をより高耐久に。

・メンテナンスの期間を長く

通気下地屋根構法では外皮内部で空気を自然循環させて木材の劣化を抑制。メンテナンスのスペンを長くする効果を高め、下地の耐久性 80 年を目指します。



・温度変化を抑えて心地よく

野地と屋根材の間のできる空間と屋根裏、その両方の熱気や湿気を換気棟で排出することで屋根裏の環境を快適に。屋根裏からの熱の伝達を抑えて居住空間の心地よさを高めるだけでなく、夏場の熱上昇や冬場の結露を抑えて住宅内部の傷みも抑えます。

